

第32回ATP賞テレビグランプリ(ATP賞)



会 期：2016年7月8日(金)
 会 場：六本木ヒルズハリウッドホール
 主 催：(一社)全日本テレビ番組製作社連盟
 後 援：総務省／経済産業省／日本放送協会／日本民間放送連盟
 対 象：ATP加盟社、未加盟社
 公式サイト：<http://www.atp.or.jp/awards/index.php>

応募総数：ドラマ32、情報・バラエティ55、ドキュメンタリー85、
 非放送系コンテンツ15、新人賞33 合計220
 受賞式来場者数：450名



■開催内容

『ATP賞』は、日本の映像コンテンツ産業の重要な担い手となっている制作会社の社会的機能を高め、そこで働く制作スタッフ一人ひとりの情熱や気概に応えるために、創り手である制作会社のプロデューサーやディレクターが自ら審査委員となって優れた作品を選ぶ、日本で唯一の賞として1984年に創設しました。ドラマ部門、ドキュメンタリー部門、情報・バラエティ部門の3つのジャンルを基幹部門として作品を募集し、最高賞のグランプリを決定します。

1年半ぶりの開催となりました今回の応募総数は、過去最高の220作品。栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票により情報・バラエティ部門のザ・プレミアム「京都人の密かな愉しみ」(製作:オッティモ、NHKエンタープライズ、東映京都撮影所/放送:NHK BSプレミアム)が選出されました。新人賞は従来の優秀新人賞だけでなく、会員社の投票によって選ばれる『最優秀新人賞』を新設し、アマゾンラテルナの奥間勝也さん、ネット配信作品などを顕彰する特別賞非放送系部門には「Huluオリジナル連続ドラマフジコ」(製作:共同テレビジョン/配信:Hulu)がそれぞれ選出されました。総務大臣賞にもYouTube配信作品「甘いお話 Sweets Tales」(製作:ドキュメンタリージャパン/配信:YouTube)が選ばれるなど、配信メディアにも制作会社の企画力、制作力を発揮する場が広がっていることを感じさせる受賞式となりました。



■2016年度の新規取り組みとその成果・特色など

第32回ATP賞では下記2点を新たな取り組みとしました。

①非放送系コンテンツの顕彰

放送と通信が融合を深め、動画配信が大きなビジネスを生み、今や映像コンテンツ産業が新たなステージに突入しています。こうした流れを汲み、“特別賞”のなかに非放送系コンテンツ部門を新設しました。成果として、開催内容に記載したネット配信系の作品の選出へと繋がりました。

②最優秀新人賞の新設

従来、新人賞3-4名を選出していましたが、「若いテレビ制作者、コンテンツ・クリエイターを応援、顕彰する」目的から優秀新人賞5名、新人奨励賞5名の選出としました。さらに優秀新人賞に選ばれた5名の5作品を、事前に全会員社の各代表1名に視聴頂き、テレビグランプリ同様に1票を投じ、最優秀新人賞を選出しました。従来、十数名だった応募数が、注目度の高さもあり、33名の応募へ増大しました。

